

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第585号 2018年7月8日

外国籍の子どもたちの初聖体ミサ

毎年インターナショナルスクールの学年末にあたる6月の始めに、英語ミサにおいて外国籍の子どもたちが初聖体に与ります。今年も6月17(日)、9時30分からの英語ミサにおいて、9人の子どもたちがたくさんの会衆に見守られながら、喜びの日を迎えました。

白いドレスで着飾った可愛らしい女の子が5人、ネクタイをして神妙な面持ちの男の子が4人。まずミサの始めにキジト・マワイラ師から今日は何のために教会に来たのかと問いかけがあり、声を揃えて「初めてご聖体を拝領します」としっかり答え、両親たちもこの子どもたちを強い信仰をもった大人になるように育てると誓いました。

今日のミサは、初聖体の子どもたちを中心に典礼奉仕をします。ミサ前の挨拶、入祭行列、聖書朗読、奉納、共同祈願、平和の祈りなど、何度もリハーサルを重ねて練習しました。練習の時には消え入りそうな声だったのに、本番では堂々と声を出し、晴れやかな笑顔も見られました。

子どもたちは準備クラスで「私の小さなこの光」(This Little Light of Mine)という聖歌を習い、ミサの中でキジト師に祝別していただいたろうそくに火を灯し、神様にささげました。すぐに会衆から手拍子が始まり、歌の最後にお辞儀をしたときには聖堂一杯に大きな拍手が沸き、見守る両親の目には涙が光っていました。



♪ Let it shine, Let it shine, Let it shine ♪

初聖体の準備クラスは昨年の9月24日から始まり、授業は合計18回。カトリックの信仰の基本的な教えを学びます。リーダーは、ICCのJojie Yamajiさん、Kayzel Garboさん、Tammy Junkerさんの3人で、7~9歳の子どもにも理解できるように努力と工夫を重ねました。

9人の子どもたちの両親は国際結婚の人も多く、国籍は、ポーランド、フランス、ドイツ、アルゼンチン、ポルトガル、スペイン、アイルランド、フィリピン、アメリカ、韓国、日本。今年は、主任講師が就労ビザの関係で突然の帰国を余儀なくされ、かわりの先生を急遽調整しなくてはならず、あの時は大変だったとTammyさんは振り返ります。

授業での使用言語は英語。英語を母国語とせず、来日間もない子どもたちもいましたが、驚くことに、カトリックの教義の奥の深さを学ぶと同時に、子どもたちは、みるみるうちに英語も身につけていったそうです。神様のはからいは素晴らしいとリーダー

たちは口を揃えます。

カトリックの子どもにとって、初聖体は母国にいたなら、たくさんの親戚や大家族に囲まれて祝う人生の大きなイベントであり、道しるべであり、節目です。しかし、日本に来ている外国籍の子どもたちにそのような機会は望めません。それでも、何人か、はるばる母国から親戚や祖父母がお祝いに来てくれました。

キジト師は何度も授業にサプライズ参加して、子どもたちに質問をし、知識を授けてくださったそうです。初聖体の準備クラスを通して、神父様と子どもたちの距離はぐっと近づき、彼らの信仰を育む貴重な機会となったことでしょう。

ミサの後は、教会ホールで両親たちが持ち寄りで用意したお祝いのパーティーがあり、緊張がとけた子どもたちを囲んで皆で楽しい時間を過ごしました。



祖母が母国からお祝いに



リーダーをねぎらうキジト師



名前を呼ばれ初聖体証明書が授与されました



さあ、いよいよ初聖体を拝領します